

歌集
星宿

佐藤佐太郎

岩波書店

歌集 星 宿

一九八三年八月二日 第一刷発行 ©

定価二五〇〇円

著 者 佐 藤 佐 太 郎

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目五
発 行 所 鉄 岩 波 書 店

電話 〇三・六四二
振替 東京六二六四〇

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan

星宿 目次

昭和五十四年

インド即詠	晩秋	新秋	百日紅	樟枯葉	京都二首	梅雨の日々	首夏	夕渚	惜春	春無辺	渚	立春	新年
-------	----	----	-----	-----	------	-------	----	----	----	-----	---	----	----

36	33	30	27	25	24	21	19	18	14	11	9	6	4
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	---

隨時感想
歲晚

昭和五十五年

年始
大寒
紅梅
立春以後
平安
惠州
小庭
夏至前後
台風余波
旅の歌
佐渡即詠

41 39

74 71 70 67 64 60 57 54 51 47 46

歲月

秋分すぎ

人に贈れる歌

昭和五十六年

新年述懐

生日以後

マニラにて

身辺 一

身辺 二

自照に題す

万里長城・紫禁城・其他

旧恨

街路樹

飲食

76 80 83

88 89 95 97 101 107 109 113 120 124

石鎚山
菊花
街川
往反

昭和五十七年

落月
灘江
老境日々
春光
浴泉
藤の花
額紫陽花
夏の香
かがりび

134 131 129 127

171 168 164 160 156 150 144 142 140

後
記

台風後
余生
秋香
老齡
青芝
ロサンゼルスにて
再び自照に題す
晴天歳晩

201 193 191 189 185 182 178 175 173

星 宿

昭和五十四年

新年

一年の寒暑に老いし草木にまじり声なき梅ひら
きそむ

手につつむ真^ま玉^{たま}のごときものありて生^いくる一年
さやかにあらな

更始する年をおもへばわが友の誰の上にも恩恵はあれ

尊まらずはたさげすまらず見て来しがその老境にありみづからは

つつしみて怒るなかれといふ声をみづから聞か
んこの一年は

立春

青天に音なく雪の傾斜する窓外の屋根山などの
ごと

昨日きのうの雪あとかたもなき庭のうへ声なく相隣る
梅と山茶花さざんか

道のべに霜ばしらたつ遊歩道寒かんの日くれて身辺
さびし

身の老いしわれのごとくに柳立つ冬の日またく
葉無きにあらず

風の無き冬日に開く眼の寒くおもひて今日は道
歩みゐるき

青空が暗く見えつつ歩む午後空さまざまに白雲
光る

立春のころひるがへる花の無き道あゆみをり雨
後あたたかく

わが家の白梅はくばい隣家の薄紅梅うすこうばい立春ごろのあたりひ
そけし